



90歳ヒアリングについて

2012年11月18日(日)

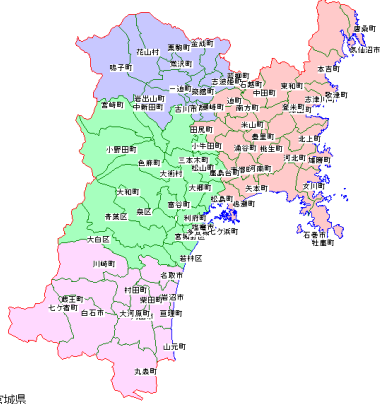
東北大学大学院環境科学研究科

古川柳蔵

90歳ヒアリング

現代社会が、知らず知らずのうちに、失ってしまった低環境負荷で持続可能な暮らし方を学ぶ手法。今なら、90歳の人々にヒアリングを実施し、先人の偉業である自然と共に生きる暮らし方や知識を聞き出し、現代社会に再導入し、後世に伝えることができる。90歳の人々は戦前(1941年)に20歳、1960年頃に40歳で一家を支える人々。90歳は自然との共生に必要な知識の宝庫。地域らしさも見出せる。急がなければ、数年のうちに喪失する。

国土地理院承認 平14地研 第149号



宮城県



<気づきを与える90歳の言葉の例>

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 自然のリズムに合わせる心地 | 13. 手入れする |
| 2. 自然のサインを読む | 14. 持たない |
| 3. 自然を活かす | 15. 役立つ庭 |
| 4. 自然災害への備え | 16. 小屋や蔵がある |
| 5. 生き物との距離が接近している | 17. 生活の中に音があつた |
| 6. 水・農業・屋根づくり共同作業 | 18. エンタメ商店街 |
| 7. 大事なことでつながる地域 | 19. 出前商売 |
| 8. 地域住民のよりどころ(神社・祭) | 20. 物に感謝する |
| 9. 山、燃料、水の共有 | 21. 自然を敬う |
| 10. 暮らしながら次世代に伝える | 22. 先祖を敬う |
| 11. 子供に役割がある | 23. 異なる贅沢 |
| 12. 生活品は育てて保存する | 24. ゆるさ、おおらかさ |

宮城県の事例

<方法>

- ・宮城県在住の90歳程度の高齢者65名以上にヒアリングを実施(2ヶ月間)、ヒアリングメモ作成。
- ・現地の言葉を理解できる人と同行(一人2時間程度)。
- ・ヒアリングメモの横断的分析。

<どのように活かすか>

- ・「昔は水、燃料など大事なものを共有し、それがコミュニティをつなげていた。」(90歳の言葉)それを現代版に焼き直し、「共有電池でつなげるコミュニティ」を構想。
- ・仙台で実証研究実施中。数件の家で蓄電池を共有し、各家庭からあふれ出る太陽光発電の電気をコミュニティでシェア。電池に入れた電気を近所で貸し借りする技術的に低環境負荷に最適化されたシステム導入と、新しいライフスタイルを提案。(昔はしょうゆの貸し借りをしていた)

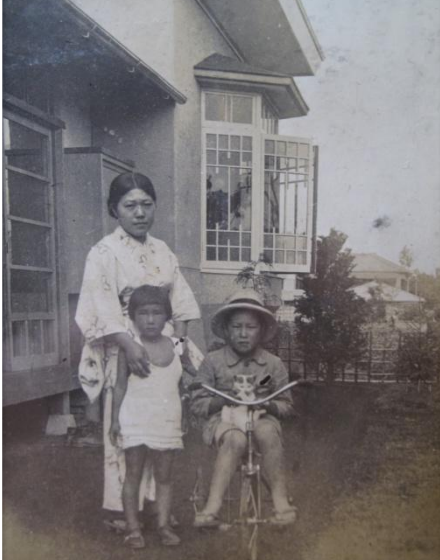




子供のころの
話を聞く



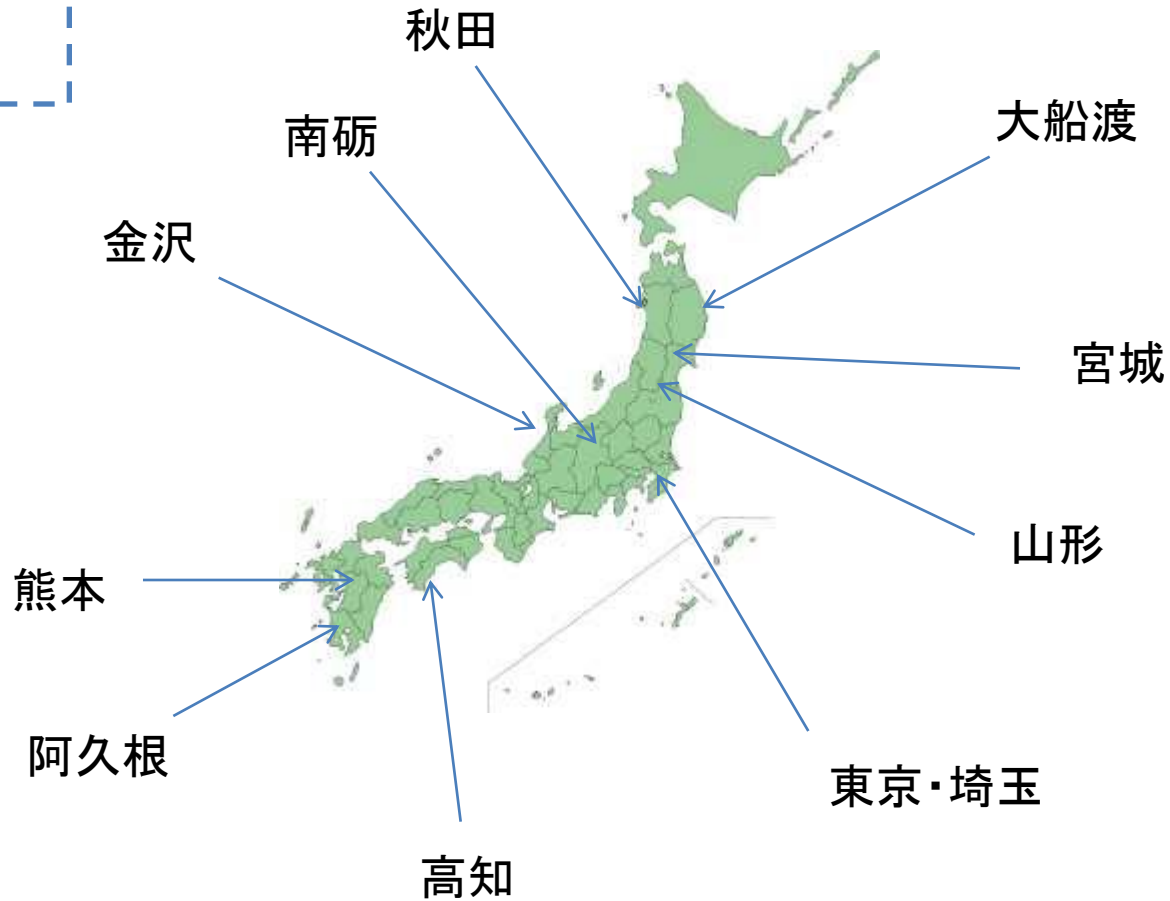
至宝の知恵



90歳ヒアリング実施地域

海外

- ・スウェーデン
- ・ロサンゼルス
- ・スロベニア
- ・ドイツ



- ・秋田市の寺町に生まれ育ちました、父は浄土真宗の僧侶をしていましたが家族はお婆さんと両親、それに姉・妹と弟の7人家族であった。
- ・当時住んでいた家は、寺の住職が住む「庫裏」ではないが、寺から少し離れたところにある分院と言われる離れのようなところで、葬儀やお彼岸の時に大勢の人にお説教が出来るほどの大きな部屋と廊下があり、他に家族が住む和室が四つほどの木造平屋の建物であった。
- ・大きな部屋は客間と呼ばれ、主に法事や来客のため使っていた。また、地方から召集された新兵の入隊を世話するため、秋田17連隊の中隊長という偉い人とその係りが泊まったことも時々あった。そのほか毎度のように行事があったのでそれを仕切る母や手伝う姉の苦労も大変だったなーと想いいたします。
- ・土間には木枠で作った流し台と冷蔵庫があって、その脇に水瓶をおいてあったすな。法事があった時やお客さんが多く来てご馳走を出す時は、新屋町の雪屋(地中を深く掘り、雪や氷を保存して夏場に販売する業者)から氷を取り寄せて冷蔵庫に入れ、生ものを冷やしていたなー。
- ・釜は二つあって、ご飯を炊くものとお湯を沸かすものに分かれていた。燃料はストーブとおなじ薪を使っていた。
- ・水は町内にある共同の井戸で桶に汲んでから天秤で担いで運んだ。姉妹・弟で当番を決めて運んだものだが子供にとっては大変きつい手伝いだったなー。だから米の研ぎ汁を掃除に使うなど、水は本当に大切にしていた。
- ・風呂は家になかったので、近くの銭湯にいていた。

- ・便所は汲み取り式のものが家の内にあり、大便所と小便所が別々であったな一。台所で使った水は外のキッチン(排水を溜める枡)に流していたが、一杯になるころ、畑を作っている人がきて肥料にすると云って便所と一緒に汲み取ってくれたな一。
- ・庭は広く、色々な木が植えられ垣根もあったし、花もたくさん植えられていた。私たちはときたま掃き掃除をするくらいで、手入れは花好きで器用な父がやっていた。
- ・近所には寺がたくさんあり、昼間の人通りと寺へのお客は多かったが、針仕事(裁縫)を教える店があったくらいで普通の家が多く、工場や店など、めだつた建物はなかった。
- ・当時の着ていたものは、大人は洋服と着物が半々であったが、中にはモンペを穿いている人もいたな一。子供は着物が多く、ほとんどは木綿で出来た、継ぎ剥ぎが多い質素なものであった。
- ・冬の寒い時期になると重ね着をしたほか、大人の男はコート、女は角巻き、子供達はドンブク(綿の入ったハッピ)を着るものが多かった。
- ・小さい頃はおやつといっても干し餅くらいしかなかったので、晩ご飯が楽しみであった。好き嫌いなど許されなかったから何でも食べたものだが、肉か魚と一緒に野菜がたくさん入ったカヤキ(鍋物)が大好きであったな一。
- ・今は季節に関係なく好きな食べものがいつでも手に入れることができる。若い人はあまり深く考えないで食べていると思う。私らの小さいころは、春はワラビやゼンマイなどの山菜、夏はウリにスイカやジャガイモ、秋には柿、イチジク、トマトの果物、ハツダケ、アマダケなどの茸類が出た。晩秋から冬に掛けてはサンマ、タラ、ハタハタ、シャケなどの魚類が出回り、あー今年も冬がきたな一。とその時々で季節を感じたものだ。昔の野菜や果物、魚には旨味があったが、最近のものは薄っぺらな味のものが多くあまり美味しくない。冷凍食品が多いことや肥料や土の作り方がわるいのかな一と思っている。

- ・当時の乗り物は自動車やバスがあったがほとんど歩いたものです。自転車もあったが金持ちの家しかなかった。バスは停留所でなくとも手を上げると止まって乗せてくれ便利だったものです。遠足は尋常小学校の時は弁当を持って近くの公園(八橋公園)などに歩いて行ったが、母の実家である本荘(現・由利本荘市)に遊びに行く時や学校の修学旅行の時は自動車やバスに乗って山形県の湯の浜温泉に行ったこともある。
- ・お盆やお彼岸の時は、お参りに来た人達を案内したり履物を揃えたり、お茶を出したりするなどお手伝いをしたものだ。そんな忙しい中でもお客さんから色々な話を聞くのが楽しみでもあった。
- ・其の中に、船に乗っていて遭難し大変な思いをして助かった漁師さんがいた。その人はどんな危ない時にあっても慌てないで周りを良く見て動け。人の命ほど大切なものはね。ということをお話してくれたことが今でもはっきり覚えている。この春に大きな地震があつてガタガタと揺れた時、ふっとこの事を思い出し、すぐにベットから降りたりすることも無く落ち着いた態度をとれたと思っている。こうした話をいっぱい聞いて自分のためになったと有難く思っている。
- ・小さい頃の遊びは、男の子はチャンバラやかくれんぼ、木登り、橇(ソリ)やドッコ(下駄に金具をつけたもの)滑り。女の子はかくれんぼ、折り紙、編み物、それに昔話の語りを聞くことなどであったが、男も女も夏は海水浴に良く行ったものだなー。
- ・寺のため、檀家やお客さんから良くお土産をいただいたものだが、酒やもろこし菓子、ウドン山菜のゼンマイなどが多かったなー

- ・毎年の楽しみとして節句と**竿灯祭り**、其れにお正月があった。3月の桃の節句にはおひな様を5月の男の節句には**おでんちあん**(秋田市の八橋地区で作られる土人形)を飾ったりして遊んだものだ。また、お正月には**秋田万歳**を家に上げ近所の人も呼んでにぎやかであったし、お年玉ももらったこともあった。竿灯祭りでは女達が浴衣を着て大勢で踊る「前踊り」に加わって一緒に踊って楽しんだものだー。
- ・電気は通っていたが、電灯の点いているところはお客さんの多く来る部屋と皆が集まる居間だけで、ほかは石油ランプを点けていた。**毎日のようにそのランプのホヤ(ランプの芯を覆う透明なガラス製の器)を磨くのも手伝いの一つであった。**
- ・夏の暑い夜は窓を**全部開けて涼しい風を入れて寝たものだが、蚊や虫などが入ってくるので蚊帳を吊ったり、また、乾燥しておいた蓬の葉を外で燻し、その煙を家の中に入れて虫を防いだこともあった。**
- ・寒い時期はお客さんの来る部屋や家族が集まるところには囲炉裏に**炭を熾したり、薪ストーブも使っていた。**薪は夏のうちに買い込んで小さく切って、太いものは割って乾燥させ燃えやすくしていた。自分たちの寝床は**湯たんぽ**を使っていた。
- ・孫ばあさんや両親はやさしい人であったが、躰は厳しかったなー。例えば、**人に頼らず自分のことは自分でやれ。**お金は大切なものだから計画的に使え。**物は大事に使え。他人と和め。**などであった。
- ・そのほかに礼儀の仕方、料理の作り方、和裁(針仕事)、掃除の仕方など毎日のように教えこまれたものだすー。

- ・今、食べたいなーと思うものがあればその食材は家族やヘルパーさんに頼んで買ってもらうが、調理は全部自分でやっている。例えば、ハンバーグやビーフシチュー、中華風料理や餃子など、自分で食べるものはなんでも作っている。また、服装や身の回り品を揃えたり選んだり、つくろったりすることは勿論、トイレ掃除も全部自分でやっている。
- ・料理を作ることは栄養のつり合いを考えるので、頭を使うし指も使う。また身体も適当に動かすので健康で長生きのためになると思っている。
- ・寺に生まれ育ち、小さい頃から家の手伝いとお客さんへの挨拶や湯茶の接待、そして針仕事の見習いなど、本当に躰奉公のようで苦しい時もあったが、こうした教えがあったからこそ、今、自分のことは自分でやれるのだと思い感謝している。
- ・自分の子供達をこういう風に育てようという思いはなかったが、娘も孫達も良くしてくれるし自立心も強いので、自分の後ろ姿を見てくれたようで嬉しい思いだ。



90歳ヒアリング

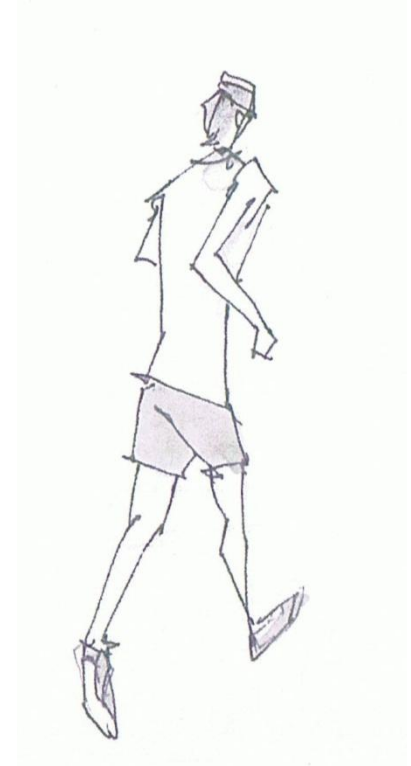
－失われつつある物事(60件のヒアリングより抽出)－

1. 自然のリズムに合わせる心地
2. 自然のサインを読む
3. 自然を活かす
4. 自然災害への備え
5. 生き物との距離が接近している
6. 生き物と遊ぶ
7. 水・農業・屋根づくり共同作業
8. 大事なことでつながる地域
9. 地域住民のよりどころ(神社・祭)
10. 地域で楽しむ
11. 行事を守る
12. 山、燃料、水の共有
13. 家族内の思いやり
14. 家族以外も助け合う
15. 家族以外と同居、家族が多い
16. 暮らしながら次世代に伝える
17. 子供に役割がある
18. 年寄りに役割がある
19. 家長の役割がある
20. 家の中の仕事と地域の仕事
21. 子供は自分で見てやりかたを覚える
22. 子供の世界
23. 生活用品は育てて保存する
24. 手入れする(庭、道具、衣服)
25. 持たない
26. 半年先を考えて今の行動を考える
27. 使い切る、マルチに使う、代々使う
28. なおしてつかう
29. 食、燃料、木材などの地産地消
30. 循環させる
31. 採集する
32. 自給的生活
33. おやつが庭にあり、景観になる
34. 役立つ庭
35. 小屋や蔵がある
36. 家のかたちが暮らしのかたち
37. 体も道具
38. 自分で工夫する
39. 暮らしの中の歌
40. 生活の中に音があった
41. 見立てる文化
42. 家は生産の場
43. 家で人をもてなす
44. 火とつきあう
45. においを消す工夫
46. 歩く時間が多い
47. 異なる移動運搬手段
48. 出会うしくみと場がある
49. 都市と農山村の行き来
50. 外の世界とのふれあい
51. エンタメ商店街
52. 小さな商い
53. 専門店化・職人
54. 出前商売
55. 量り売り
56. いくつもの生業
57. 勤勉
58. 転職、引越、生活変動
59. お金に換算しない価値
60. 異なる時間感覚
61. 地域は自分たちでつくる
62. 水を大事にして感謝する
63. 物に感謝する
64. 自然を敬う
65. 先祖を敬う
66. 異なる贅沢
67. ゆるさ、おおらかさ
68. ちょうどよい加減
69. ハレとケがはっきり
70. 生と死が身近

自然環境と人にとっての 最適化条件

- ① 自然との共生
のかたちは何か
-「自然観」と「物質循環」-

- ② 伝えられてきた
ものは何か
-「習慣化」と「心の豊かさ」-



自然エネルギーシェア —大事なものの共有—

子供が遊び
親が集う‘涼み台’

普段使い
防災拠点

自然エネルギーの共有
ライフスタイル変革
‘エネルギーを大事に’

携帯無料充電

そこにしかない
パークレット

エネルギー新サービス
‘創エネギフト’

社会貢献ができる
新東屋
‘エネルギー寄付’

個性豊かな地産材

被災地支援の
寄付パークレット
‘子供デザイン’

写真がとりたくなる
かわいらしさ
情報新サービス

人が集まる憩いの場
地域で掃除分担

制約の中にもうまれる
リアルなSNS

自然と共に生き続ける町

■イラスト内構成要素(案)

右表の50種類の昔のコンセプトをイラスト化
(90歳ヒアリングから抽出)

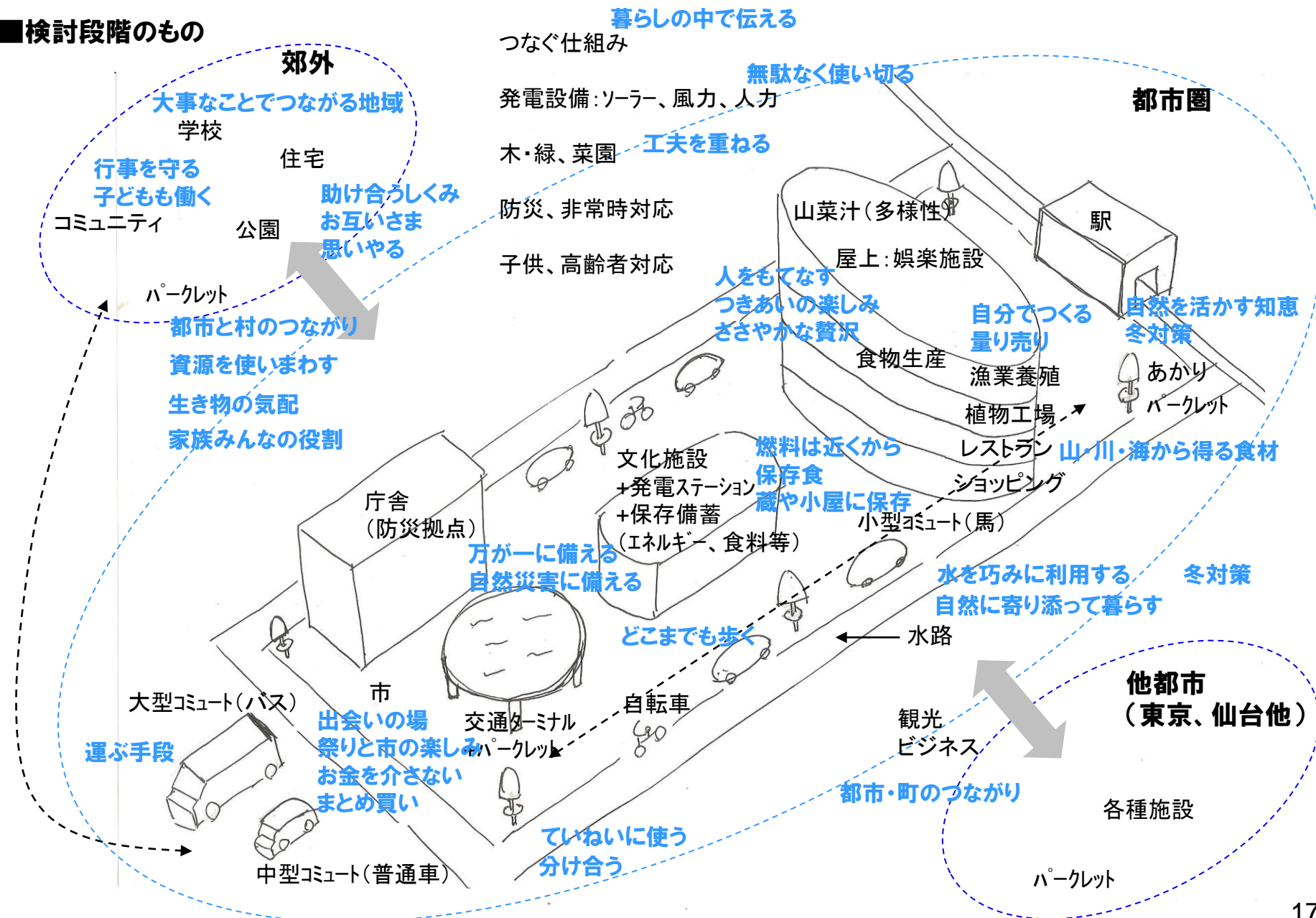
【参考】秋田の特徴を表すキーワード

積雪(2mを越える)・冬対策
冬囲い、雪屋、雪かき、雪の遊び
服の重ね着、まとめ買い
交通が不便
ものが不足
父・客が情報源
家庭内で団欒

特殊市場
娯楽施設
修学旅行
移動を抑制する言い伝え
山菜汁(23~25種類)
水不足
風呂少ない
セギ
あかり
教育熱心
人とのつながりを大事に

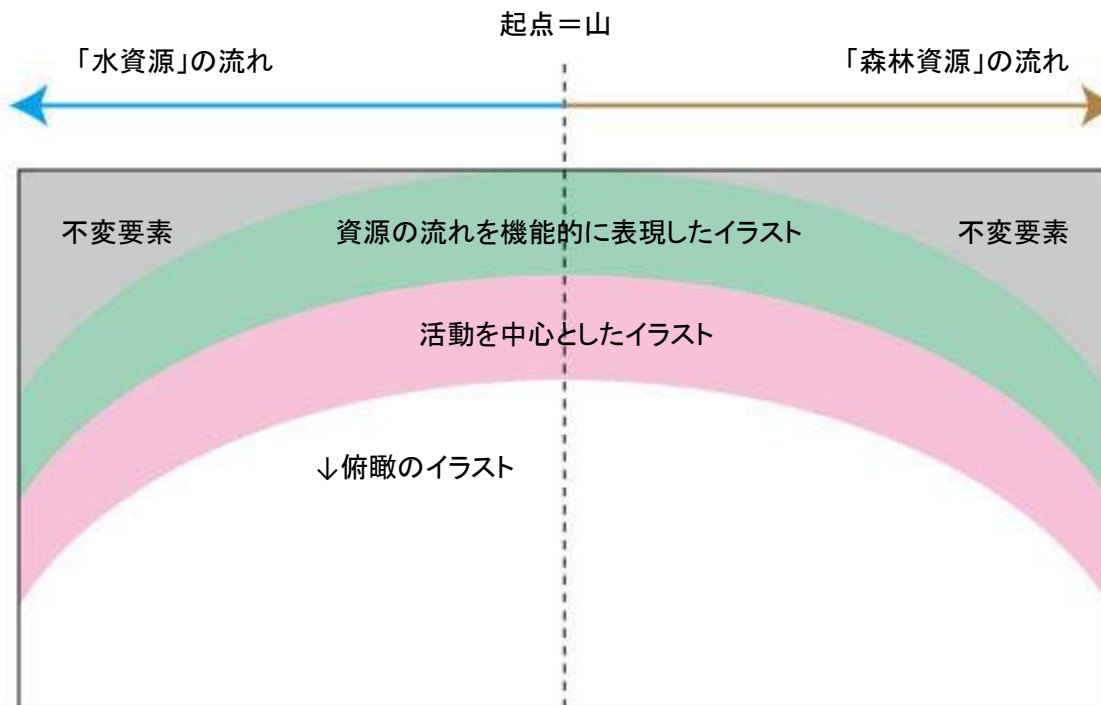
1	自然に寄り添って暮らす	26	暮らしの中の歌と音
2	自然を活かす知恵	27	大事なことでつながる地域
3	山、川、海から得る食材	28	助け合うしくみ
4	食の基本は自給自足	29	分け合う
5	てまひまかけてつくる保存食	30	つきあいの楽しみ
6	万が一に備える	31	お互いさまの暮らし
7	質素な毎日の食事	32	人をもてなす
8	ハレの日はごちそう	33	出合いの場
9	野山で遊びほうける	34	祭りとの楽しみ
10	自然からもらうおやつ	35	行事を守る
11	水を巧みに利用する	36	身近な生と死
12	燃料は近くの山や林から	37	大勢で暮らす
13	家の中心に火がある	38	家族を思いやる
14	神様に手を合わせる	39	家族みんなの役割
15	家は生産の場	40	子どもも働く
16	蔵や小屋に保存する	41	暮らしの中で伝える
17	庭の木が暮らしを支える	42	いくつもの生業
18	暮らしを映す家のかたち	43	お金を介さないやりとり
19	自然災害に備える	44	都市と村のつながり
20	自分でつくる	45	小さな店、町場のにぎわい
21	ていねいに使う	46	振り売り、量り売り
22	むだなく使い切る	47	どこまでも歩く
23	工夫を重ねる	48	運ぶ手段
24	資源を使いまわす	49	ささやかな贅沢
25	生き物の気配	50	エピソード

■検討段階のもの



上部イラストの基本構造

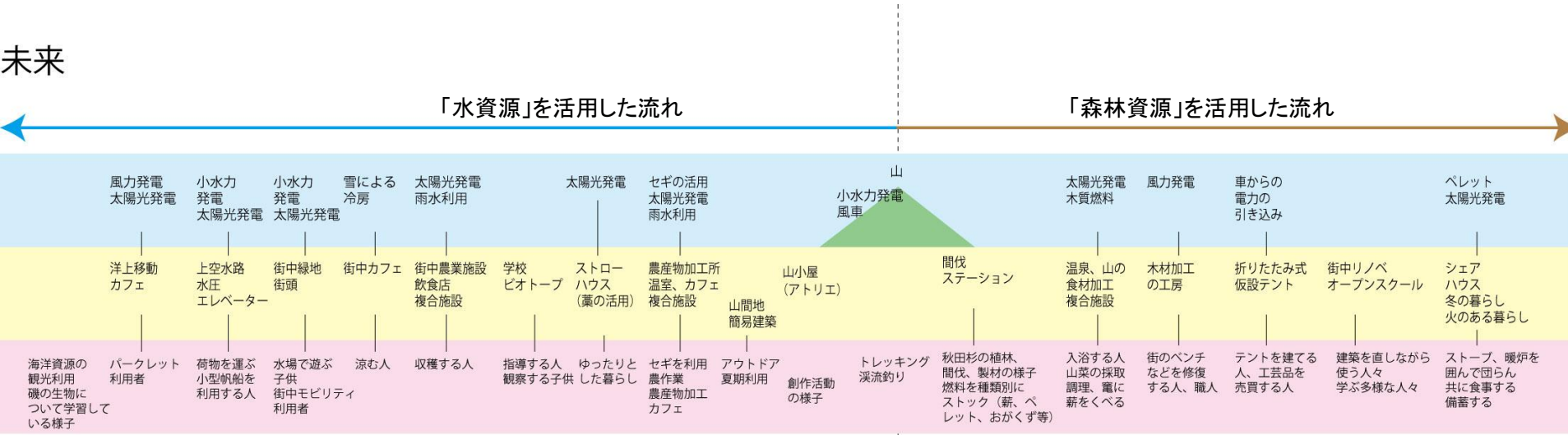
- ・大きく「水資源」を活用した流れ、「森林資源」を活用した流れに分類。
- ・それらの資源の起源である「山」を中央に配し、それぞれの流れを左右に振り分け。
- ・上下に2階層とし、下段(ピンク)に人の活動を中心としたイラスト、上段(緑)に資源の流れ、活用方法を活動内容とリンクさせ断面的に機能を示す。
- ・両端のグレーの部分は時代を経ても変わらない不変の部分として、「秋田らしさ」を表現する「祭り(竿燈と港まつり)」と「まげわっぱ等の工芸品など木材を利用した日常の暮らし」を描く。



上部イラストの詳細

・「資源の流れを機能的に表現したイラスト」の部分は、自然エネルギー(水色)と施設(黄色)に分けて表示。
人の活動はピンクの部分。

未来



過去

